

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 ニュース ■3面 読者/まんが/俳句/詩
- 4面 健康体操/ホットライン ■5面 憲法講座/ホット ■6面 マイナンバーカードは作らなくて大丈夫/母の歴史 ■7面 新婦人の活動/主張/老いた母と向き合う



愛知・豊川市 三谷トミ(83)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

核兵器の非人道性 訴えつづけた

日本被団協にノーベル平和賞



受賞の喜びを語る児玉さん

日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞受賞—10月11日にこのビッグニュースが世界を駆け巡りました。被団協事務局次長として核兵器廃絶運動の先頭に立ってきた、新婦人会員の児玉三智子さんに、お話を聞きました。

今こそ被爆者の役割が 国の内外で求められている

みんなの受賞

—日本被団協のノーベル平和賞受賞、本当におめでとございます。新婦人しんぶんにも、お祝いや、わがことのように喜び合ったという通信が次々つき寄せられています。

日本被団協事務局次長

児玉三智子さんに聞く

ありがとうございます。受賞が決まった11日の夕方、「児玉さんおめでとう」と電話がかかってきたときは、「ええ!何が?」って、わけがわからなかったんですよ。すぐにテレビつけたら受賞のニュースをやっていた、「うわーっ」ってびっくり。本当かしらと思うぐらいうれしかったですね。

その直後から、知り合いやお世話になった人、証言を依頼された自治体や団体の方からも、次々と電話やメールが届き、取材依頼もあって、うれしい悲鳴でした。これは日本被団協だけのものではなく、支えてくださった皆さん、被爆者全員、そして多くの亡くなった先達と、一緒に運動してきたみんなの受賞だと思っています。

内外で証言続けて

—今回、受賞理由に、被爆者の証言が、核兵器使用の「タブー」をつくるなど重要な役割を果たしたとありました。児玉さん自身も何度も国際会議に出かけて精力的に訴えてこられましたね。

自分をさらけ出して被爆の証言をするのは、つらい時もあります。でも、被団協は「自らの痛苦の体験をおして人類の危機を救おう」「世界のどこにもふたたび被爆者をつくるな」を大事に励まし合い、みなさんに支えられながら活動を続



記者会見する被団協の(左から)濱中、田中、和田、濱住の各氏(10月12日、東京都千代田区)

若い人が加わると、アピールの仕方変わり、活動の可能性が広がりますね。今年の夏は、ジュネーブの国連本部で開かれたNPT再検討会議第2回準備委員会に行きました。私はNGOセッションの冒頭で被爆の証言をし、「被爆者がいるうちに、核兵器廃絶の道筋だけでも見たい。そのために私はきました」と訴え、大きな拍手をいただきました。

会議の合間を縫って、10カ国の代表と懇談した

のですが、今回、核保有国は一国も来てくれませんでした。2018年の会議の時には5カ国の代表と直接会って訴えたのに、もう被爆者とは向き合えないのかと。逆に懇談できた国は、共通して核兵器が本場に使用されるのではと危機感を持っていて、「今こそ被爆者の話が必要」だと強調されました。マレーシアの大使は「崇高な活動に感謝します」、ドイツの大使は「昨日の児玉さんのスピーチを聞き、核兵器の非人道性がやっとなかった。動画をウェブで発信したい」など話され、被爆者の役割を肌で実感しました。(2面へ)

国連の会議で訴えて



7月22日~8月2日、NPT再検討会議の第2回準備委員会NGOセッションで発言する児玉さん(右上)。ドイツ代表と懇談(左上)、カザフスタン代表と懇談(右)

